

2011 年 7 月 16 日



【本件に関するお問い合わせ先】
社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒140-0001 東京都品川区北品川 1-16-1
舟正ビル 2F
TEL.03-3450-9360 FAX.03-3450-9361
E-mail: press@americanfootball.jp
Web: <http://americanfootball.jp>

報道各位

第 4 回世界選手権 オーストリア大会

日本代表メキシコを破り銅メダルを獲得

第 4 回 世界選手権は 7 月 15 日(金)、ウィーンのエルンスト・ハッペル・スタジアムに会場を移し順位決定戦を行った。共に 2 勝 1 敗、グループリーグを 2 位で終えた日本とメキシコ、銅メダルをかけた戦いは、最後の 1 プレーまで息を抜けない展開となったが、日本が 17 対 14 で接戦を制した。勝った日本は銅メダル(3 位)を獲得、敗れたメキシコは 4 位が確定した。この試合の詳細は 2 ページ目をご覧ください。

この試合に先立って行われた 7 位決定戦、共に今大会未勝利のオーストラリア対地元オーストリアの対戦はオーストリアが 48 対 10 の大差で勝利し今大会初白星をあげた。この結果オーストリア 7 位、オーストラリアの 8 位が確定し両チームは大会を終えた。

明日 7 月 16 日(土)は今大会最終日となり、優勝決定戦:アメリカ対カナダ、5 位決定戦:ドイツ対フランスが行われる。

■試合結果

【3 位決定戦】

7 月 15 日(金) @ウィーン 19:00~

Team	1Q	2Q	3Q	4Q	合 計
日 本	0	10	7	0	17
メキシコ	0	7	0	7	14

【7 位決定戦】

7 月 15 日(金) @ウィーン 15:00~

Team	1Q	2Q	3Q	4Q	合 計
オーストリア	7	21	6	14	48
オーストラリア	0	3	7	0	10

■第 4 回世界選手権 オーストリア大会 確定順位

- 3 位 日 本
- 4 位 メキシコ
- 7 位 オーストリア
- 8 位 オーストラリア

日本代表 薄氷勝利で SWC3 位

残り 8 秒。メキシコのオーバータイム突入を狙った 51 ヤード FG を、DL 紀平(オービック)が値千金のブロックで仕留め、17 対 14 で逃げ切った。2 大会ぶりとなったメキシコとの SWC 対戦は、これで 3 戦 3 勝。カナダに敗れて 4 大会連続の決勝進出を逃したものの、銅メダルの獲得となった。

7 月 15 日(金)。ウィーンに舞台を移した順位決定戦は、オーストリア最大のエルンストハッペル・シュタディオンに 4128 名の観衆を集めて開催。パントの応酬でフィールドポジションの奪い合いとなった立ち上がりだったが、メキシコが 3 度目のポゼッションで K マルトスによる 55 ヤード FG を失敗。自陣 38 ヤードから攻撃権を得た日本が、メキシコの反則と QB 高田(パナソニック)—WR 清水(オービック)の 27 ヤードパスで敵陣 15 ヤードへ侵入し、高田が QB ドローで中央を抜け出て第 2Q7 分に先制 TD を決めた。

メキシコはこれまでのショットガン主体の攻撃から一転。プロ I 体型からのインサイド・ラン攻撃で日本守備をパワーで圧倒する戦略だったが、43 体型を 34 守備に切り替えた日本代表の対応は見事だった。ところがこの直後にメキシコにビッグプレーが飛び出した。キックオフ・リターナーのヴィアモンテスが、右サイドラインを疾走して 82 ヤードのリターン TD。僅か 12 秒で試合は振り出しに戻った。

日本代表攻撃が 3 アンド・アウトでパントに追いやられ、モメンタムがメキシコに傾きかけ

た瞬間、今度は日本守備にビッグプレーが出た。SF 三宅(オービック)がメキシコ QB ペレスの右ロールからのパスに反応良くインターセプトに飛び込み、敵陣 12 ヤードまで返す 21 ヤードのリターン。K 青木による 23 ヤード FG で 10 対 7 の前半折り返しとなった。

後半立ち上がりの日本代表攻撃は鮮やかだった。3 分 21 秒、8 プレーを費やした 60 ヤード TD ドライブを、QB 高田—WR 前田(鹿島)による 19 ヤード TD パスで締めくくって 17 対 7。WR 小川(IBM)、RB 古谷(オービック)、RB 神山(富士通)らヘショートパスでテンポよくダウンを更新し続けた好ドライブだった。

続く攻撃では 19 プレー、9 分 52 秒に及ぶ徹底したボールコントロール力を発揮してゴール前 4 ヤードに侵入。K 青木による FG がまさかの失敗に終わり、8 分を残して集中力が明暗を分ける展開となったが、ここではメキシコ攻撃が先に底力を発揮。3 点差に迫る 80 ヤードの TD ドライブを演出してゲームはがぜん緊迫した。

残り 4 分。日本代表は再びボールコントロールに出たものの、1 分 12 秒を残してパント。すでにタイムアウトをすべて消費してしまっていたメキシコ攻撃に焦りも見えたが、自陣 20 ヤードから再開した攻撃で QB ペレスの脚力を生かしたランとパスでボールを進め、日本代表守備の反則もあって日本陣 34 ヤードにまで前進。最後は同点狙いの FG に託したものの、DL 紀平のブロックで決着した。

【試合記録】

■2011 年 7 月 15 日(金)エルンストハッペル・シュタディオン■観衆 4128 名
■19:00 開始 21:20 終了■天候=快晴 20 度■主審=ハンス・ヘニング(ドイツ連盟)

メキシコ	0	7	0	7=14
日本	0	10	7	0=17

【得点経過】

2Q 05:00	日本	TD	高田 15 ヤードラン(青木キック)	0—7
04:48	メキシコ	TD	ヴィアモンテス 82 ヤード KOR(マルトス・キック)	7—7
00:35	日本	FG	青木 23 ヤードキック	7—10
3Q 08:39	日本	TD	高田—前田 19 ヤードパス(青木キック)	7—17
4Q 03:54	メキシコ	TD	ペレツ—サラザー10 ヤードパス(マルトス・キック)	14—17

【チーム記録】

	メキシコ	日本
得点	14	17
第 1 ダウン	16	15
ラッシュ	24—110	22—58
パッシング	189	195
回数-成功-INT	24-18-1	27-19-0
総攻撃獲得距離	50-299	49-253
ファンブル-リターンヤード	0-0	0-0
パントリターン	0-0	2-14
キックオフリターン	4-140	3-87
インターセプトリターン	0-0	1-21
パント回数-平均	3-36.3	4-34.5
ファンブル-ロスト	1-0	0-0
反則-罰退距離	9-92	5-54
ボール所要時間	22 分 12 秒	25 分 48 秒
第 3 ダウン効率	11 回中 5 回	11 回中 4 回
第 4 ダウン効率	1 回中 1 回	1 回中 1 回
レッドゾーンスコア効率	1 回中 1 回	3 回中 4 回

メキシコ代表スターティングメンバー

[攻撃]

QB	4	ロドリゴ・ペレツ
RB	23	ジョナサン・バレラ
RB	44	ヨアン-カルロス・カスティーロ
WR	8	ホセ-アントニオ・アルフォンソ
WR	10	エリック・ドルダン
TE	81	ダニエル・ロダン
OL	70	サンチアゴ・マルトス
OL	61	マリオ・ロドリゲス
OL	55	エドガー・カヴァゾス
OL	66	ノエル・マレノ
OL	58	ユリオ・ナヴァ
K	19	ホセ-カルロス・マルトス

[守備]

DL	1	マウリシオ・ロペス
DL	77	エヴァラルド・ヴェラズケズ
DL	92	ディエゴ・スサレイ
DL	9	アレアンドロ・ヴァズケス
DL	3	フェルナンド・ロザーノ
LB	56	マヌエル・パディラ
LB	5	ジョルジュ・ヴァルデス
DB	99	ミゲル・ルーナ
DB	28	ラッシーエル・ロペス
DB	11	ルイス・ジャイメス
DB	13	ロベルト・シルヴァ
P	19	ホセ-カルロス・マルトス

日本代表スタートメンバー

[攻撃]

QB	8	高田 鉄男	パナソニックインパルス
RB	20	古谷 拓也	オービックシーガルズ
WR	1	木下 典明	オービックシーガルズ
WR	11	前田 直輝	鹿島ディアーズ
WR	17	小川 道洋	IBM ビッグブルー
TE	87	大矢 祐嗣	富士通フロンティアーズ
OL	67	村井 雄太	鹿島ディアーズ
OL	72	村上 崇就	IBM ビッグブルー
OL	73	谷口 祐二	パナソニックインパルス
OL	75	宮本 士	オービックシーガルズ
OL	77	平本 晴久	元アサヒ飲料チャレンジャーズ
K	15	青木 大介	鹿島ディアーズ

[守備]

DL	13	山中 正喜	パナソニックインパルス
DL	53	平井 基之	富士通フロンティアーズ
DL	92	西川 岳志	鹿島ディアーズ
DL	93	紀平 充則	オービックシーガルズ
LB	9	塚田 昌克	オービックシーガルズ
LB	42	牧内 崇志	鹿島ディアーズ
LB	45	鈴木 将一郎	富士通フロンティアーズ
DB	14	藤本 将司	オービックシーガルズ
DB	21	加藤 公基	鹿島ディアーズ
DB	22	今西 良平	パナソニックインパルス
DB	24	佐野 忠也	鹿島ディアーズ
P	15	青木 大介	鹿島ディアーズ

【記者会見コメント】

◎森清之日本代表ヘッドコーチ

—メキシコに対する印象と勝因は？

「米国との一戦のフィルムを見て、メキシコ攻撃のラインの大きさ、強さに驚いた。RB 勢の能力も凄まじく、我々は何としてもメキシコのランを阻止しなければならなかったが、守備ラインがよく頑張ってくれたと思う」

—この大会に対する印象は？

「決勝進出できずに本当に悔しい思いでいる。しかし、我々はベストを出したと思う。サイズの不利を指摘されることが多かったが、正直言えば自信を持って戦い抜くことはできた」

◎日本代表ゲーム MVP WR 前田直樹(鹿島ディアーズ)

—今日のゲームに対する取り組みは？

「優勝を目指していたが、カナダに敗れて心が折れかかっていた者もいた。それでも昨日、もう一度チーム一丸となって戦い抜くことを誓いあって今日のゲームに臨んだ。その意味でいいゲームができたと思う」

—コンディショニングは厳しかったか？

「参加チームの中で一番小さく、筋力も劣っていたかもしれない。でも身体的条件で劣勢にあったとしても、気持ちでは決して負けてなかった。ハードな日程は

覚悟の上だったし、それを言い訳にすることなく準備してきた。その結果として、今日勝つことができた」

◎ラウル・リベラ・サンチェス メキシコ代表ヘッドコーチ

—最後に同点を狙ったロング FG(51 ヤード)は自信があったか？

「我々の K は 60 ヤード FG を決める力を持っているのでトライした。それぞれが全力を尽くしたことに對して誇りに思っている」

—コンディショニングは厳しかったか？

「チームは全力を出し切った。米国とのフィジカルな対戦を通じて 4 人の負傷者を出し、疲労もあってタックルミスが多かったのは残念だった」

◎メキシコ代表 MVP LB マヌエル・パディラ

—日本の攻撃に対する印象は？

「ゲームの統計は関係ない。しかし、数多くの反則は反省せねばならない。ゲームプランを忠実に実践した日本に對し、我々守備も頑張ったと思うが及ばなかった。日本の QB(高田)が、あれだけ走ってくるとは思っていなかった」

■ 第4回アメリカンフットボール世界選手権オーストリア大会 2011 大会概要

名称 第4回アメリカンフットボール世界選手権オーストリア大会 2011
The Fourth World Championship of American Football, Austria 2011
(略号:SWC2011=Senior World Championship 2011)

主催 IFAF [International Federation of American Football (国際アメリカンフットボール連盟)]
American Football Bund Oesterreich (オーストリア・アメリカンフットボール連盟)

期間 2011 年 7 月 8 日(金)～7 月 16 日(土)

出場国 8 カ国が下記 2 グループに分かれてのリーグ戦を経て、同順位同士による順位決定戦を戦います。

【グループ A】	【グループ B】
アメリカ合衆国(前回優勝)	オーストリア(欧州選手権 3 位・開催国)
ドイツ(欧州選手権優勝)	フランス(欧州選手権準優勝)
オーストラリア(オセアニア代表)	日本(アジア代表)
メキシコ(アメリカ大陸代表)	カナダ(アメリカ大陸代表)

試合スケジュール

7 月	8 日(金)	① アメリカ×オーストラリア	② ドイツ×メキシコ	@インスブルック
7 月	9 日(土)	① オーストリア×日本	② フランス×カナダ	@グラーツ
7 月	10 日(日)	① メキシコ×オーストラリア	② ドイツ×アメリカ	@インスブルック
7 月	11 日(月)	① 日本×フランス	② カナダ×オーストリア	@グラーツ
7 月	12 日(火)	① オーストラリア×ドイツ	② アメリカ×メキシコ	@インスブルック
7 月	13 日(水)	① カナダ×日本	② オーストリア×フランス	@グラーツ
7 月	15 日(金)	① 7 位決定戦	② 3 位決定戦	@ウィーン
7 月	16 日(土)	① 5 位決定戦	② 優勝決定戦	@ウィーン

* 試合開始時刻 第1試合:15 時開始 第2試合:19 時開始(現地時間)

* 試合会場 インスブルック Tivoli Stadion(収容人数 16,000 人)
グラーツ UPC Arena(収容人数 15,400 人)
ウィーン Ernst Happel Stadion(収容人数 50,800 人)

WC2011公式サイト <http://www.americanfootball2011.com/en/>

【これまでの「アメリカンフットボール世界選手権」について】

第1回大会は、1999 年イタリア・パレルモにおいて開催。その後、第2回大会が 2003 年ドイツ・フランクフルト、第3回大会が 2007 年日本・川崎市にて開催された。日本は第1回、第2回にて連続優勝し、第3回では準優勝。なお、第3回よりこの競技の母国であるアメリカが出場し、優勝を飾った。

詳細は大会公式ホームページ(日本語) [過去の大会]をご参照ください。

【IFAF について】

国際アメリカンフットボール連盟



IFAF(International Federation of American Football=Tommy Wiking 理事長)
は、1998 年に創立、翌 99 年イタリアのシシリー島パレルモ市に 6 カ国が集って第1回世界選手権大会が開催され、過去 3 大会を通じて世界各地で加盟国の輪を広げてきた。

設立当初 25 カ国だった IFAF は、現在 PAFAF(環太平洋連盟 16 カ国)、EFAF(欧州連盟 32)、AFAF(アジア連盟 5)、OFAF(オセアニア連盟 3)の 4 地区が加盟し、今春これに加えてナイジェリアを起点とした待望のアフリカ大陸連盟が創立、59 カ国の参加する組織としてその規模を拡大している。

IFAF 公式サイト: <http://www.ifaf.info/>